

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

臨床と研究 (2005.04) 82巻4号:683～684.

肛門部に発生したSyringocystadenoma papilliferumの1例

安部達也, 佐藤 誠, 岩重弘文, 村木専一, 國本正雄, 沖田  
憲司, 木村鉄宣

# 肛門部に発生した Syringocystadenoma papilliferum の 1 例

安部 達也<sup>①</sup> 佐藤 誠<sup>①</sup> 岩重 弘文<sup>①</sup>  
村木 専一<sup>①</sup> 國本 正雄<sup>①</sup> 沖田 憲司<sup>②</sup>  
木村 鉄宣<sup>③</sup>

## はじめに

Syringocystadenoma papilliferum (以下 SAP) は、汗腺由来のまれな腫瘍で、その多くは頭部や顔面に発生する。今回我々は肛門部に発生した SAP の 1 例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

## I. 症 例

患者：29歳，女性。

主訴：肛門痛および肛門出血。

家族歴：特記すべきことなし。

既往歴：27歳，子宮内膜症。

現病歴：約1週間前より肛門痛および肛門出血を認めたため，2004年1月26日当院外来を受診。

初診時所見：肛門縁の7時方向に直径10mm，弾性硬，辺縁平滑な赤褐色の腫瘤を触知した。同部より少量の出血を認めた(図1)。

血液一般，生化学および尿検査では異常所見は認めなかった。

治療：2004年1月28日，仙骨硬膜外麻酔下に切除術を行った。

病理組織学的所見：表皮表面から連続した囊腫様構築があり，囊腫内腔にむかって乳頭状に上皮が突出し(図2a)，腺腔構造の一部には断頭分泌像を伴っている(図2b)。一部に核異型を伴うが，病変は表皮に開口しており Syringocystadenoma papilliferum with cell atypia と診断された。

## II. 考 察

SAP は1954年に Pinkus ら<sup>1)</sup>によって報告された汗腺由来の非常にまれな腫瘍で，頭部，顔面に好発する。類器官母斑上に生じることが多いが，

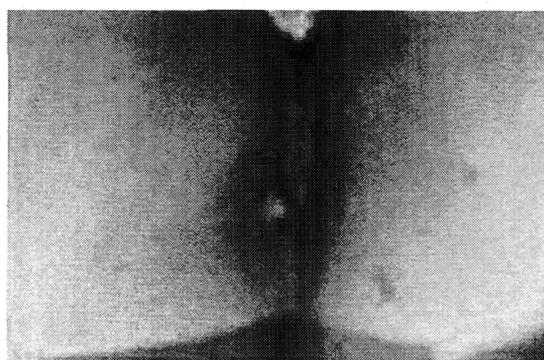
単独に生じることもある<sup>2)</sup>。

筆者らが検索し得た本邦報告例は30例で，男が16例，女が14例であった。発生部位は頭部および顔面が18例と半数以上を占め，その他は下腹部3例，大腿部3例，臀部2例，腋窩2例，背部1例，乳房1例であった。治療は全例に外科的切除が行われていた。

長山ら<sup>3)</sup>は，SAP の約 1/3 が脂腺母斑に合併し，脂腺母斑が頭部に好発するため本症が頭部に多く認められるとしている。

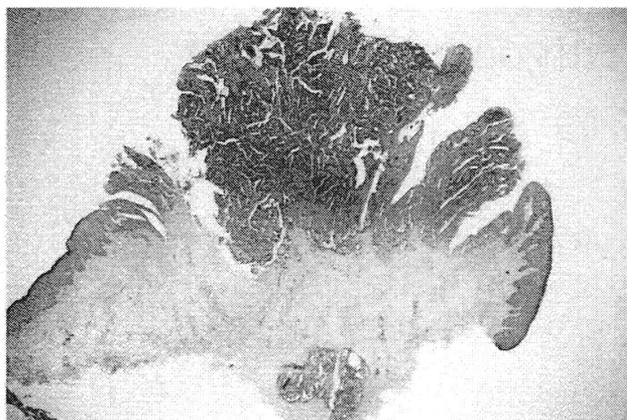
臨床経過は，生下時または幼小児期にやや黄色調の孤立性の無毛斑または丘疹として生じ，次第に帯紅色隆起となり，思春期以降に表面暗褐色乳頭腫状，疣状，角化性の直径2cmくらいまでの結節となる。時にびらん，潰瘍を生じる<sup>4)</sup>。八坂ら<sup>5)</sup>は脂腺母斑上に認められるものは，生下時から思春期頃に生じることが多いが，単独発生例では，中年期，壮年期に好発するとしている。

SAP の発生由来については一般にアポクリン由来とする説が多いが<sup>6)</sup>，酵素組織所見や電子顕

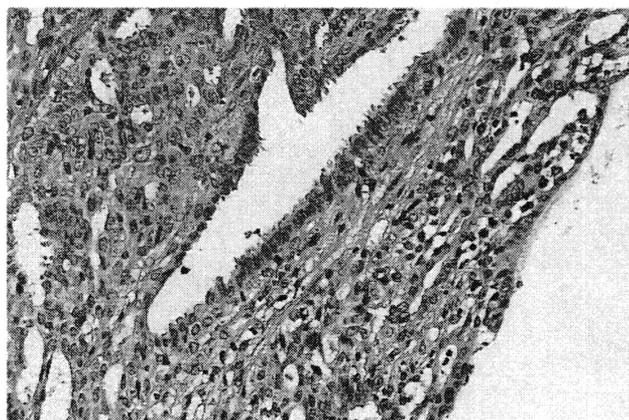


肛門縁の7時方向に直径10mm，弾性硬，辺縁平滑な赤褐色の腫瘤を認めた。

①くにもと病院肛門科 ②札幌医科大学第一外科  
③札幌皮膚病理研究所



a



b

a: 表皮表面から連続した嚢腫様構築があり、嚢腫内腔にむかって乳頭状に上皮が突出している (HE 染色)。  
b: 腺腔構造の一部には断頭分泌像を伴っている (HE 染色)。

図 2

微鏡学的所見より一部の症例はエックリン腺由来とも考えられている<sup>6)-8)</sup>。

病理組織像は、表皮は乳頭腫状増殖を呈し、表皮から連続して真皮内に多数の嚢腫様、管腔様構造が存在する。これらの腔内に絨毛様突起を認める。腔壁や絨毛様突起は2層の細胞より構成されている。外層細胞は立方形で好塩基性の核を有し、内層細胞は高円柱状で円形の核を有し、時に断頭分泌を見る。これらの腫瘍の下部にアポクリン腺の集塊を見ることがある。周囲の間質には多くの形質細胞の浸潤を見る。鑑別診断は、臨床的には脂腺母斑、表皮母斑に類似し、またこれらの病巣内に本症を見ることがある。組織学的には乳頭状汗腺腫との鑑別を要する<sup>4)</sup>。

SAPは非常に稀ではあるが自験例のように肛門部のほか、臀部の発生例も報告されており、肛門科診療においても留意すべき疾患であると考えられた。

結 語

きわめて稀な肛門部 Syringocystadenoma papilliferum の1例を報告した。

参 考 文 献

- 1) Pinkus, H.: Arch Dermatol, 69: 305, 1954.
- 2) 荒尾龍喜, 池田重雄, 石原和之ほか: カラー図説皮膚腫瘍. 金原出版, 東京, 175, 1992.
- 3) 長山隆志, 大西誉光, 渡辺晋一: 大転子に生じた乳頭状汗管嚢胞腺腫の1例. 皮膚臨床, 44(4): 496, 2002.
- 4) 植木広明, 富田靖, 玉置邦彦ほか: 皮膚科専門医テキスト改訂第2版. 南山堂, 東京, 632, 2002.
- 5) 八坂なみ, 安藤巖夫, 久木田淳: 上眼瞼に生じた Syringocystadenoma papilliferum の1例. 皮膚臨床, 43(5): 682, 2001.
- 6) Lever, W. F.: Schaumburg-Lever, G. Tumors of the epidermal appendages. Histology of the skin, 7ed, 578, 1990.
- 7) Requena, L., Kiryu, H., Ackerman, A. B.: Syringocystadenoma papilliferum. Neoplasms with Apocrine Differentiation, Ackerman, A. B. et al. ed., Lippincott-Raven, Philadelphia, 105, 1998.
- 8) Hashimoto, K., Lever, W. F.: Dermatology in General Medicine. 5<sup>th</sup> ED, Vol. 1, ed. Freedberg, I. M. et. al., McGraw-Hill, 899, 1999.